

本の森 1月号



丹波篠山市立中央図書館通信 No. 208 2023年1月1日 発行

今月の特集

どうする 2023

新年 あけまして おめでとうございます
新たな決意で良き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
2023年初の特集コーナーではインターネットをはじめ、
技術・芸術・旅行・創作・スポーツ・健康・江戸探求など様々な
カテゴリから今年の目標のヒントとなる資料を集めて
みました。新たな年のチャレンジにお役立てください。

『傑作！文豪たちの『徳川家康』』

芥川 龍之介 ほか著

宝島社

BFケツ



2023年の大河ドラマは『どうする家康』。脚本は「リーガル・ハイ」「コンフィデンスマン JP」「相棒」「ALWAYS 三丁目の夕日」などの脚本を手がけた、古沢良太氏。昨年^{こさわ}に続き今期も原作のない大河ドラマとなりました。徳川幕府260年の^{いしすえ}礎を築いた家康の生涯がどのように脚本化・映像化されるのか注目されています。

ここで紹介する本は『徳川家康』の小説アンソロジーです。文豪と呼ばれる7人の偉大な作家が、史実に基づき、それぞれの視点から波乱万丈なその生涯を描いています。大河ドラマを楽しむための副読本にいかがでしょう。

なお、特集コーナーでは“江戸探求”と称して家康を含め江戸^{かか}に関わる資料も収集しています。併せてお楽しみください。 (酒井)^{あわ}



マークデザイン
加藤昌男

『帝都探偵大戦』

芦辺 拓 著 東京創元社 Fアシ

テレビや映画などで「大スターたちが夢の競演」という言葉を聞くとウキウキする、という方は多いと思います。ではそれが「名探偵」ではいかがでしょうか。

本書は、江戸で続発する怪事件に岡っ引きの三河町の半七、銭形平次らが挑む「黎明編」。大戦前夜の東京で博覧強記の探偵、法水麟太郎や理学博士の帆村莊六らが国際的な陰謀に立ち向かう「戦前篇」。復興中の東京で、少年探偵団の小林少年に届いた手紙が発端となり、やがて全国から集まった探偵たちを巻き込む大事件をえがく「戦後編」の三部構成。この一冊で総勢50人の名探偵がその頭脳の冴えをみせてくれます。

巻末に、登場する探偵たちを紹介する「名探偵名鑑」を収録。「探偵のことを知らない」「この探偵の活躍をもっと読みたい」という方は参考にしてください。新春にふさわしい豪華な作品です。(西澤)

文学の
棚から



『すばらしい人体』

山本 健人 著 ダイヤモンド社 490.4ヤ

一般書の
棚から

本書は、現役の医師である著者が「医学」を健康情報としてではなく、その面白さ奥深さを教養として伝えたいと書き下ろした一冊です。

例えば「読んでいる本を揺らすと読めないが、頭の方を揺らしても読める」「目をつむっていても、自分の体の各部位の位置を正確に把握している(手で触ることができる)」など、日常生活では意識することのない人体の知識をはじめ、医学の偉人の物語、ウイルスの発見やワクチン開発のエピソードを含む現代医療の意外な常識を紹介しています。

「知識の点と点が線となつてつながり、思わず膝を打つときめきを、誰かに伝えたい」のが著者の執筆動機とのこと。著者が感じた心躍る体験を、追体験してみませんか?(河南)



レファレンスの
棚から

こんが レファレンス(調査依頼)がありました

「丹波篠山の地名の由来が知りたい。」

一番お問い合わせが多いのが「安口」です。「兵庫県の難読地名がわかる本」(C3/23/ヒ)などによると「ハダカス」とは方言で山椒魚のことで、安口に多く生息していたのが由来です。なぜ「安口」という字をあてたのかについては、山椒魚のことをやはり方言でアンコウとも呼ぶので、そこから魚類の鮫鱈とつながり、鮫鱈の漢字から魚偏をとり、康の字が口に変わり現在の地名になったということです。

また、市内がかつて水郷地帯だったことを示す地名に、魚をとる網を掛ける場所から「網掛」、葦の間から「味間」などがあります。(西澤)

Y onde M ite

よ ん で み て

『Y onde Mite』のコーナーでは利用者の方から寄せられたお勧めの一冊を掲載します

『朱色の化身』

塩田 武士 著 Fシオ
2022.03 出版



主人公の探し求める女性の数奇な宿命の重さに、読み手の人生の軽を感じるすごい物語。実在するとあるので更に深い感銘を覚える。

ペンネーム キャットのの

『老人をなめるな』

下重 暁子 著 304ヒ
2022.09 出版



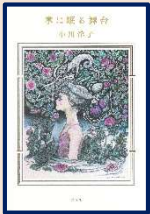
本人の意思を無視して高齢者をひとくくりにし、命を軽視することに異議を唱え、高齢化ニッポンが抱える難題の打開策を提言する。

と かく 兔に角スカッとする本。

ペンネーム 南天

『掌に眠る舞台』

小川 洋子 著 Fオガ
2022.09 出版



様々な”舞台”にまつわる8編の短編ものがたり。舞台上で演じることと、それを観ることという対照的な関係が、様々な形で描き出されている。

劇場体験ができる一冊です。

ペンネーム ろうばい 蠟梅

『図書館人への言葉のとびら』

内野 安彦 著 010.4ウ
2022.09 出版



図書館人の道標となるような珠玉の言葉が収録された本です。

『図書館員の仕事は図書と人を結びつける』という言葉がありましたが、実感!!

丹波篠山の図書館にはこの精神が宿っていると思います。感謝!!

ペンネーム 周五郎ヴァン

『パンとサーカス』

島田 雅彦 著 Fシマ
2022.03 出版



不正隠蔽の犠牲となった父親の復讐を果たすため、CIA エージェントになった男が、日・米両政府の表と裏を巧みに欺き、日本国民の仇をとるというノンフィクションのような物語。とてもおもしろかった。

ペンネーム Y・K

『スノーホワイト』

森川 智喜 著 Fモリ
2014.11 出版



中学生探偵の襟音ママ工。名推理の秘密は真実を映しだす鏡。その鏡をめぐって探偵、女王、小人たちが入り乱れて頭脳合戦をくり広げます。

ペンネーム 千里隼人



映画上映会のお知らせ

入場無料
申し込み不要

「アルジャーノンに花束を」

2006年 フランス・スイス 95分

- 監督 ダヴィッド・デルリユ
- 出演 ジュリアン・ボワスリエほか
- 日時 1月13日(金) 14:00 ~ 15:35
1月14日(土) 15:00 ~ 16:35
- 場所 中央図書館 視聴覚ホール

知的障害ゆえに母から疎んじられ、施設で育ったシャルル。学校の清掃夫として働いていた彼に、ある日、チャンスが訪れる。知能を向上させる新薬の人体実験の最初の候補に選ばれたのだ。投薬後、驚くべき速度で高い知能を獲得したシャルルは、さまざまな言語を習得し、数学、生物学で論文を提出、音楽にも才能を示す。ところが、新薬による知能改善は一時的なものにしかすぎなかった…。

図書館カレンダー 1月 行事予定

日	月	火	水	木	金	土
1 休	2 休	3 休	4 休	5	6	7
8	9	10 休	11	12	13	14
15	16 休	17	18	19	20	21
22	23 休	24	25	26	27	28
29	30 休	31 休	謹賀新年			

【中央図書館】

- ★「国際ソロプチミスト 絵画展」
展示ホール：1/9(月) ~ 1/20(金)
- ★「映画上映会」
視聴覚ホール：1/13(金)・14(土)
- ★「近成俊昭 絵画展」
展示ホール：1/21(土) ~ 1/29(日)
- ★「永田萌氏 講演会」
視聴覚ホール：1/29(日)

※イベントは行わない場合があります

「永田 萌氏 講演会」のお知らせ

日時：令和5年1月29日(日)
午後2時~3時30分
場所：丹波篠山市立中央図書館
視聴覚ホール
テーマ：「読書は心の夢飛行」

※事前予約が必要です 先着70名

【講師プロフィール：永田 萌氏】

- * イラストレーター、絵本作家。
- * 花と妖精をテーマにした独自の作風で現在も第一線で筆を執る。画集や絵本など出版物は約170冊。
- * 姫路市立美術館の名誉館長。
- * 兵庫県加西市出身、京都在住。

フォローしてくださいね

